

会 議 事 録

1 会議名	平成29年度 第2回長岡市環境審議会
2 開催日時	平成29年12月25日（月曜日） 午前10時から午前11時30分まで
3 開催場所	長岡市寿クリーンセンター2階会議室
4 出席者名	<p>（委員） 解良会長 大原副会長 西俣委員 宮腰委員 龍池委員 田村委員 湯澤委員 中山委員 横山委員 坂本委員 平澤委員 猪俣委員</p> <p>（事務局） 若月環境部長 宮島環境政策課長 野口環境施設課長 小林環境業務課長 遠藤環境政策課長補佐 野村環境政策課係長 長谷川環境政策課係長 小川農水産政策課係長 林環境政策課主任 鈴木環境政策課主事</p>
5 欠席者名	小林委員、丸山委員、若井委員
6 議題	「第4次長岡市環境基本計画の素案」について
7 審議結果の概要	審議会が出た意見等を踏まえて、計画を見直すこととした。

8 審議の内容	
事務局	平成29年度 第2回長岡市環境審議会を開催します。
事務局	(会議資料の確認、欠席報告について)
事務局	それでは議事進行を会長よりお願いいたします。
会長	それでは、議題に入る前に、前回の審議会において宿題となっていた件について、事務局から報告をお願いします。
事務局	前回の審議会でご質問いただいた「平成29年版環境に関する年次報告書」8ページに記載のある「ながおか菜の花プロジェクトの推進」の現状については、全国的な菜種油の供給過剰等による販売不振や、菜の花街道生産者協議会事務局の事務の遅延などによって生産者が困っているという状況である。市としては、生産者と協議会の問題ではあるが、地産地消の推進という立場から、必要に応じて改善の申し入れをしていくほか、田植え祭り等のイベントにおいてPRなどをしていきたいと考えている。
会長	ただ今の報告について、ご意見、ご質問はありませんか。
委員	市販しているものより割高で普及するのは難しいと思うが、地産地消をラベル表示するなど付加価値を付ける工夫をしようか。
事務局	1つのアイデアとして協議会にも伝えたい。
会長	市から補助金等を出しているか。
事務局	出していない。
会長	それでは、議題に移らせてもらいます。
	議題「第4次長岡市環境基本計画の素案」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(第4次長岡市環境基本計画の素案について、資料により説明)
会長	ただ今の説明について、ご意見、ご質問はありませんか。
委員	2ページの計画の位置づけの図で、本計画と相互関係をもつであろう長岡市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画等の関連計画への矢印が、本計画に向けて一方向となっているので、関連性を見直してほしい。
事務局	本計画にぶら下がる計画について、整合性がとれるように記載する。
副会長	評価指標にあげている項目について、目標を達成するための手段が人任せのものがあるとすると指標として問題であると思うが、そういったものはないか確認したい。

事務局	いずれの項目も、市として何らかの手段を講じて目標に向けて推進するものとなっている。
委員	評価指標の項目で、29ページのGAPの認定者数のカウントの仕方を伺いたい。また、30ページの有害鳥獣対策の内容とサル情報メールの内容について伺いたい。
事務局	GAPの認定者数のカウントについては、団体で認証を受けているものが1団体あり、その中の生産者7件と個人認証5件を合わせた12件を現状値として記載している。
会長	個人認証と団体認証を分けて表記した方がわかりやすいので、表記を変更した方がよいのではないか。
事務局	表記を変更する。
事務局	有害鳥獣対策については、市の猟友会と連携して、イノシシ、サル等の捕獲や、有害鳥獣が里山に下りてこないような対策、例えば未収穫の畑の作物、柿等をなるべく早期に撤去することや、集落ごとに電気柵を設置することなどの啓発を行っている。 サル情報メールについては、今年度からサルの被害が著しい栃尾地域で行っている事業で、捕獲したメスザルに発信機を付け、その行動範囲を把握し、希望者に1日数回、その情報をメールで提供しているものである。計画にもサル情報メールの内容がわかるように表記したい。
委員	37ページの評価指標の項目で、1人あたりの都市公園面積は、人口が減っていく状況の中で、目標値が下がっているのは何故か伺いたい。
事務局	確認して次回の審議会で報告する。
委員	29ページのGAPの件について、いくつかのGAP認証機関があるが、どの機関の認証をとるかでGAPの質が違うと思うが、どのような考えでカウントするか伺いたい。 また、32ページの水質に係る評価指標について、施策として河川や海域における監視体制の充実となっているが、評価対象は河川のBODだけか伺いたい。
事務局	39ページ的环境教育の推進については、ESDの考え方を取り入れて、広い意味での環境教育として考えていってほしい。 GAPについて、グローバルギャップなどいくつかのGAP認証があり、当市でGAPに取り組んでいる方が少ないという状況から、どのGAPの認定を受けていたかに関わらずカウントする。 次に水質汚濁の関係について、市では海域についても年6回調査を実施しているが、生活排水や工場排水などによる水質汚濁の影響をより明確に反映していることから、河川のBOD値のみを評価指標とし

<p>会長</p>	<p>ている。</p> <p>続いて環境教育については、ご指摘のとおり広い意味での環境教育を推進していきたいと考えている。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>海域での水質調査は県も測定値を公表しているが、県が公表している数値は市が調査し、報告したものなのか。</p> <p>県と市で計画し、別々の場所を調査している。</p> <p>今回の計画では環境教育を重点化するとしているが、子どもたちの意識を変えるとともに、周りの保護者の意識を変えていくことが非常に重要であり、保護者や地域と一体となって環境教育を進める必要があると考えている。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>評価指標にある出前講座について、より効果的に実施するためにも、教育委員会と連携して「熱中！感動！夢づくり教育」の一部として実施したり、市PTA連合会と連携して実施したりするなど、他部署との連携を図り、継続的に実施してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校のスケジュールを考慮して準備を進めてもらいたい。</p> <p>里山の維持等についても環境教育の中に盛り込んでもらいたい。</p> <p>また、47ページに記載の「生分解性マルチ」は、通常マルチの約2倍のコストがかかるため、普及が難しい状況である。農家が購入しやすくするため市から援助ができないか検討してもらいたい。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>様々なご要望については、今後計画を策定し、事業を実施していく中で検討したい。</p> <p>先ほどのマルチについてだが、生分解性のマルチを購入する価格と、通常マルチを購入し、廃棄する価格を比較すると、どの程度違いがあるのか。</p>
<p>会長 事務局</p>	<p>通常マルチは使用後に手作業ではがして廃棄しなければならないため人件費もかかるが、生分解性のマルチを使用するより価格が低い。マルチの効果は変わらないため、その価格差を埋める補助があれば、農家も廃棄の手間がかからない生分解性のマルチを使うようになると思う。商品が普及されていけば価格も下がっていくため、その後は補助がなくても自然と使用されていくと思う。</p> <p>通常マルチは焼却処理しなければならないのか。</p> <p>産業廃棄物のため、事業者の責任で廃棄していただくことになる。基本的には廃プラスチックであるが、土が付いているため、焼却処理しなければならない。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>できれば数年のうちに、購入に係る経費の援助をご検討いただきたい。</p> <p>39ページの環境教育に関する評価指標「地球温暖化に関する講座」</p>

事務局	<p>についてだが、実施回数が4回というのは少なく感じる。また、目標値に具体的な回数を示した方が良いのではないか。学校へ出向くほかに地域の祭りやイベントでの実施も効果があるのではないかと思う。</p> <p>地球温暖化に関する講座について、年度当初に各小学校に実施の希望を募り、学校に無理のない範囲で行っている。そのため、目標としては「増加させる」に留めている。</p>
委員	<p>27ページに「市街地のヒートアイランド現象を緩和するため、歩道を透水性舗装にする」とあるが、長岡市の市街地の歩道は、アーケードや雁木があり、雨や雪が当たらない場所が多い。多額の予算をかけて歩道を透水性舗装にすることがヒートアイランド現象の緩和に繋がるのか違和感がある。むしろ車道を透水性舗装にした方が対策になるのではないか。</p> <p>また、37ページ「都市公園面積」の指標についてだが、「都市公園面積」は維持するとしつつ、「1人当たりの都市公園面積」は減少するというのは、今後人口が減ることが予測される中で、整合が取れていないと思う。見直しが必要ではないか。</p>
委員	<p>都市公園面積については、今後、市全体の人口は減ってもコンパクトシティ化により都市計画区域内の人口を増加させることを想定して算出していると考ええる。都市計画区域内の公園面積は変わらず、人口を増加させることから、1人当たりの面積を減少させたのではないか。</p> <p>また、車道については路盤が傷むため透水性舗装にはできず、排水性舗装をして側溝に水を流しており、歩道に透水性舗装をしている。</p> <p>市街地の範囲が明確ではないため、ご説明いただきたい。</p>
事務局	<p>透水性舗装についてだが、基本的には歩道用の消雪パイプを敷設するところは透水性ではなく、それ以外の歩道は全て透水性舗装にしている。透水性舗装の目的としては、雨水を地面に浸透させ、それを地下水に還元させるということだが、サブ効果として、ヒートアイランド現象も緩和できるというところで掲載している。</p> <p>また、長岡の駅周辺ではヒートアイランド現象がすでに確認されている。アーケードなどが無い周辺地域の歩道に透水性舗装を施すことによって、そこから冷気を取り込むことが目的となっていると考えられる。そのため、特に市街地をどこからどこまでということは考えていない。</p>
委員	<p>12ページ「市内全域の温室効果ガス排出量の推移」に折れ線グラフで二酸化炭素排出係数が記載されている。グラフの下の注釈には「電気事業者等が毎年公表する数値」とあるが、弊社が電気事業者として公表している数値と一致していることや、単位が「/kWh」であること</p>

事務局	<p>から、電気のみ排出係数ではないかと思われる。また、電気のみに限るようであれば、先週、平成28年度についても公表したため、注釈の表記の修正と、グラフのデータの追加をお願いしたい。</p> <p>また、5ページに「国の今後のエネルギー政策」について記載されているが、ちょうど今、国のエネルギー基本計画も見直されているところである。場合によっては、6ページの電源構成のグラフも見直しが必要であるとする。</p> <p>まず、12ページ「市内全域の温室効果ガス排出量の推移」に記載されている二酸化炭素排出係数の注釈についてはご指摘のとおりである。東日本大震災の影響で電気に係る二酸化炭素排出係数が増加してしまったことにより、温室効果ガス排出量が増加していることを示すために記載しているものである。注釈はご指摘を踏まえ改める。</p> <p>5ページ「国の今後のエネルギー政策」等については、経済産業省の動向を注視し、今後、新しいものが出て間に合うようであれば、反映させていきたいと考えている。</p>
会長	<p>32ページに「汚水処理人口普及率」の指標があるが、汚水処理の普及は「世帯」ではなく「人口」でカウントするのか。</p>
事務局	<p>人口でカウントしている。</p>
会長	<p>14ページに有害鳥獣について記載があり、イノシシやニホンザル等と書かれているが、ハクビシンは有害鳥獣に含まれるのか。</p>
事務局	<p>ハクビシンも有害鳥獣に含まれる。自然界にいる獣であって農作物や人家に危害を加えるものを有害鳥獣としている。</p>
会長	<p>家の中に入って困っているという話を聞くことがあるが、勝手に殺処分はできないのか。</p>
事務局	<p>勝手に処分はできないため、申請のうえ、許可を得ただけなければ捕獲等を行うことはできない。また、市では、相談があれば、市と委託業者が伺い、被害や進入経路等の確認や追い払いのアドバイスを行う独自の制度を行っているところである。</p>
会長	<p>本日出された意見を踏まえ、検討し、計画に反映していただきたい。以上で本日の環境審議会の議題を全て終了します。</p>
会長	<p>会長、どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>続きまして、事務局からご連絡があります。</p>
事務局	<p>(資料No.4～5に基づき、その他事項などの説明)</p>
事務局	<p>それでは以上で、平成29年度第2回環境審議会を終了いたします。なお、今後、パブリックコメントを実施したのち、第3回の環境審</p>

	<p>議会を2月下旬あるいは3月上旬に開催を予定しております。後日、文書で開催をお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は大変ありがとうございました。</p>
9 会議資料	別添のとおり